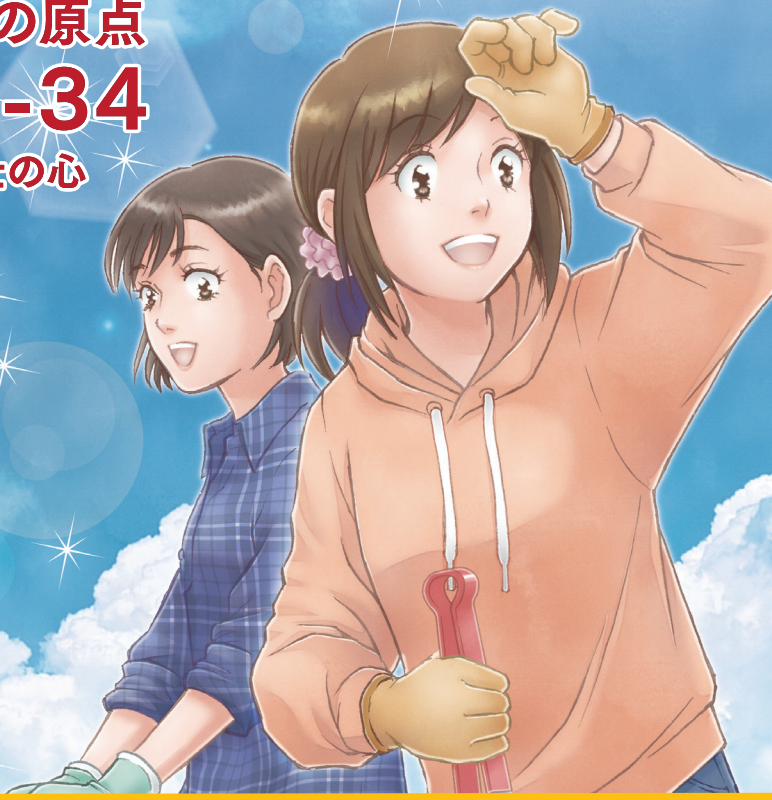
マンガ

奉仕の理念を未来へ繋ぐ

ロータリーの原点 決議23-34 から紐解く奉仕の心

企　画／国際ロータリー
第2580地区
職業奉仕部門
マンガ／日豆思惟子



決議23-34は
ロータリーの
奉仕理念を示す

唯一のドキュメント

Service above self（超我の奉仕）
One profits most who serves best（最もよく奉仕する者、最も多く報いられる）
奉仕の理念が誕生した背景と、そこに込められた想いは
決議23-34 を紐解くと見えてくる。すべてのロータリアン必読の原点。

はじめに

なぜ「奉仕の理念」を学ぶのでしょうか

ロータリーに入って良かったことの一つに〝色々な職種の方に出会い年代を超え親睦を深めることが出来た。〟という声を聞きます。ロータリークラブは「親睦」が基本であると言われる所以ですね。親睦を基本としたクラブはロータリー以外にも数多く有りますがロータリーにしかない、ロータリーならではの特色があります。

皆様は仕事や社会生活全般において行動するとき、大切にしている考え方や信条などお持ちだと思います。個人なら「座右の銘」、会社なら「経営理念」等ですね。同じようにロータリーにも大切にしている信条があります。では「ロータリーの信条」とは何でしょうか。

これが「The ideal of service　奉仕の理念」です。この理念は次の二つの言葉で言い現わされます。

Service above self（超我の奉仕）

One profits most who serves best（最もよく奉仕する者、最も多く報いられる）

分かりやすく言い換えると「利己と利他の調和」の心、「他人を思いやり、そして他人のために尽くす」心を意味するものです。

ロータリーはこの「奉仕の理念」を心に置き、自分自身や仕事はもちろん自分を取り巻く全てについての向上を目指す運動と言えます。ここが他の親睦団体にはないロータリーならではの特色です。私たちロータリアンはロータリーの根幹である「奉仕の理念」への理解を深めることによりロータリーをより深く知り、ロータリーを楽しむ事が出来ます。更にご自身の仕事だけでなく人生観そのものを大きく拡げるチャンスを得ることが出来るのです。

決議23－34を学ぶ意義

大都会シカゴにおいて一人の若手弁護士が心の友を求め、１９０５年親睦と相互扶助のクラブを創立、その後ロータリーの在り方を巡りロータリアン達の模索が始まります。ロータリーの目指すものは何か、その議論はついに対立にまで発展します。この対立の危機をどうすれば救えるのか、ロータリアン達が知恵を絞り取り纏められたものが１９２３年セントルイス国際大会での決議23－34号です。この決議23－34号にロータリーの「奉仕の理念」が明確に示され、更にロータリークラブの在り方やすべての奉仕活動の指針が示されます。この決議23－34を学ぶ事で、ロータリーとは何か、また奉仕活動はどうあるべきかを知る事が出来るのです。

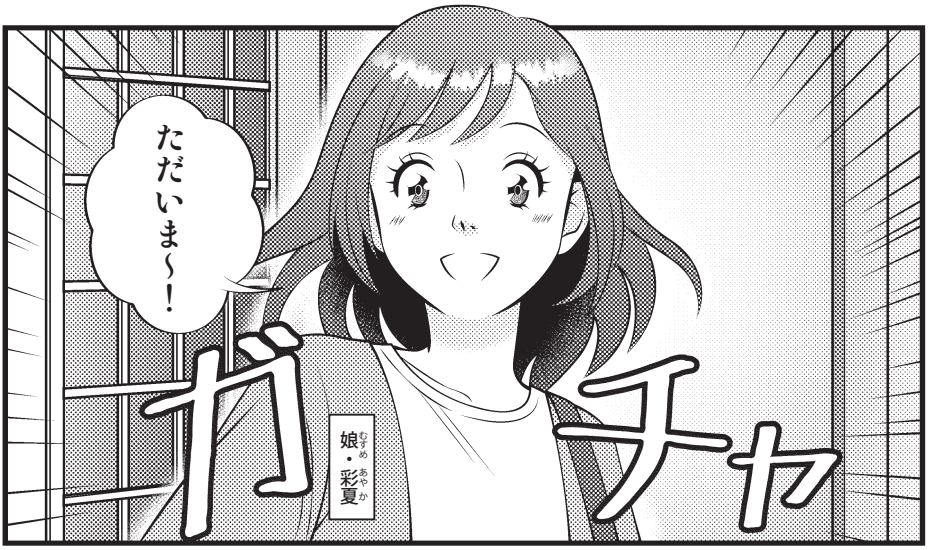
本書ではこの「奉仕の理念」を再認識すべく、１１０年前の世界に皆さんをお連れし、「奉

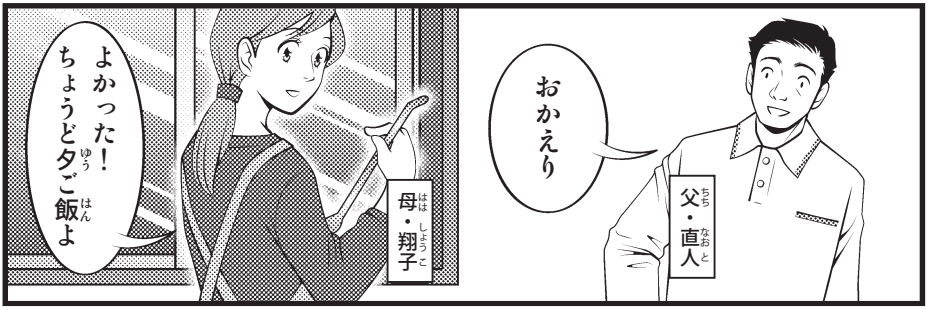
仕の理念」が確立された歴史をマンガにより振り返り、その理念が成立した過程と決議23－34を体系的に学びます。皆様もその時代にタイムスリップしあたかもそこにいたかのような想いでお読みいただければと思います。エンディングでは「奉仕の理念」を未来へ繋ぐ意義が語られます。

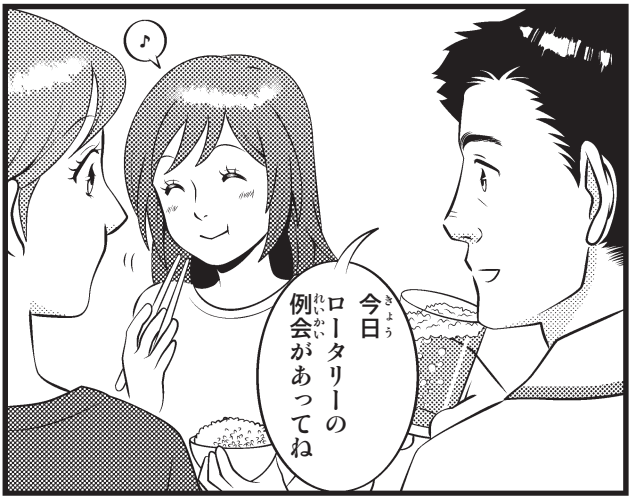
マンガのストーリーで語りきれなかった部分は、解説で補足いたしますのであわせてお読みください。

２０２３年２月28日

国際ロータリー第２５８０地区　地区職業奉仕部門


ただいま〜！
ガチャ
娘・彩夏


おかえり
父・直人
よかった！ちょうど夕ご飯よ
母・翔子


♪
今日ロータリーの例会があってね

いただきまーす

次年度会長から職業奉仕委員長を仰せつかったんだ
あら！そうなの
くいっ
大事な役割でしょ？色々大変になるわね
うんがんばらなきゃな！
キョトン
もぐもぐ
ロータリーの職業奉仕？
おはよっ！
ぽんっ
あ！梓おはよ！
友人・梓

そういえば梓ってロータリー…の活動をしてたよね

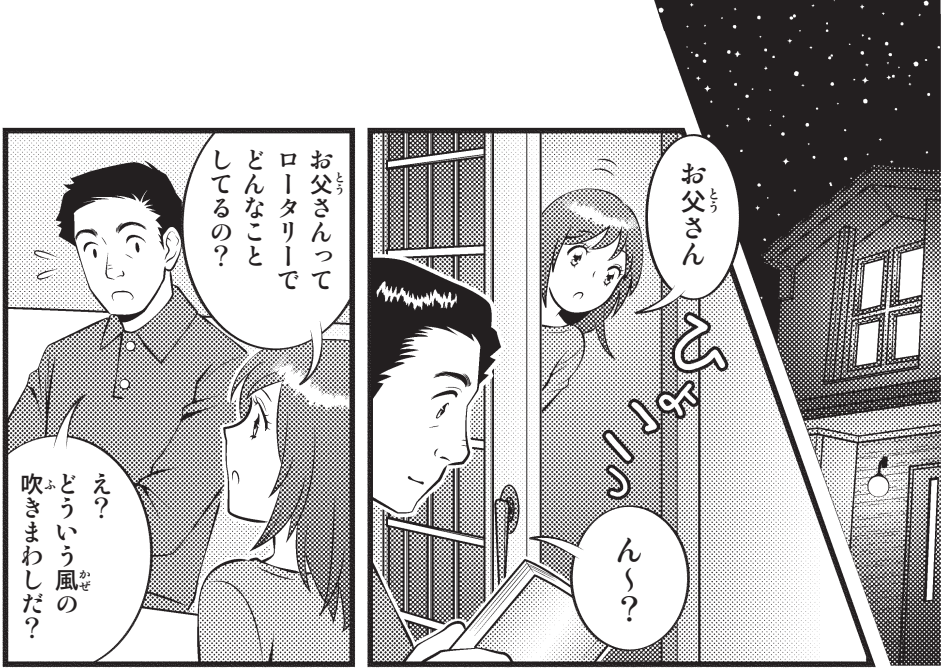
ローターアクトクラブね！

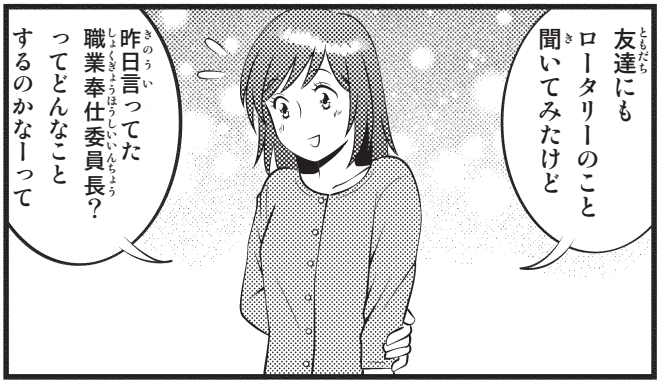
それってどんなクラブなの？教えて！

どうしたの急に？

そんな団体だったんだ…全然知らなかった

興味があったらいつでも聞いて！


お父さん
ん～？
お父さんってロータリーでどんなことしてるの？
え？どういう風の吹きまわしだ？


友達にもロータリーのこと聞いてみたけど
昨日言ってた職業奉仕委員長？ってどんなことするのかなーって

そうだな何から話せばいいか…

まずは「奉仕の理念」について教えよう！
はいっ！

まずは ロータリーの誕生から説明する必要があるな

ロータリーの設立は そう… 1905年のことだった

自分のことみたいに話すのね…

舞台はアメリカシカゴだ

1900年代の初頭シカゴ――

金儲けのためなら手段を選ばないという過酷な競争の中疑心暗鬼が渦巻いていた

……ふう

弁護士
ポール・ハリス

シカゴに来てしばらくたつが仕事は順調

しかし…

シカゴにはこんなにも人がいるのに誰もが孤独だ…

そして私も…

しかしみな競争相手を出し抜き抜きん出ようと必死で町全体が緊張感に満ちている

経済が活発なのはいいことだ

これで本当にいいのだろうか…

石炭商
シルベスター・シール

どうしたんだ？ポール

シール　僕はずっと考えていたんだ

シカゴには僕のように農場や小さな村から立身出世や夢を追ってやってきた者も多い

しかし　みな競争に必死で信頼できる友と呼べる者が少ないのではないかと

友…

だから　みなが集える場をつくってはどうかと思うんだ

私を含め　みな胸襟を開いて付き合える友がほしいんだ

それに　業種を超えて友人関係を築ければ互いのビジネスにとっても助け合うことができる

つまり　業種を超えた社交クラブというわけか？

そうだ

参加条件を1業種1名にすれば クラブ内で競争意識も働かない！

だから…

親睦を深め
相互扶助を生む
クラブを作ろう！

1905年 ポールは
シカゴの事業家3人と共に
ロータリーを誕生させた

ポール・ハリス
ハイラム・ショーレー
シルベスター・シール
ガスターバス・ローア

Rotary club

この新しいクラブの存在は
すぐに知れ渡り 入会者は
順調に増えていった

1906年の
ある日――

カーターさん
ぜひロータリーに
入会を！

ドナルド・カーター
特許弁理士

断る！

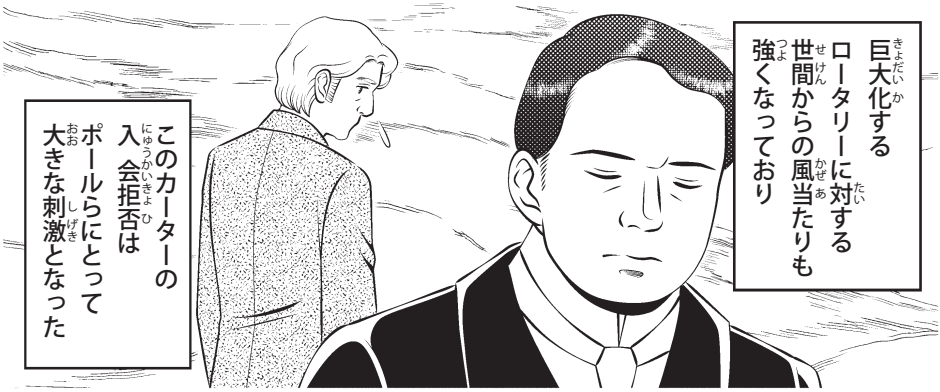
えっ!?

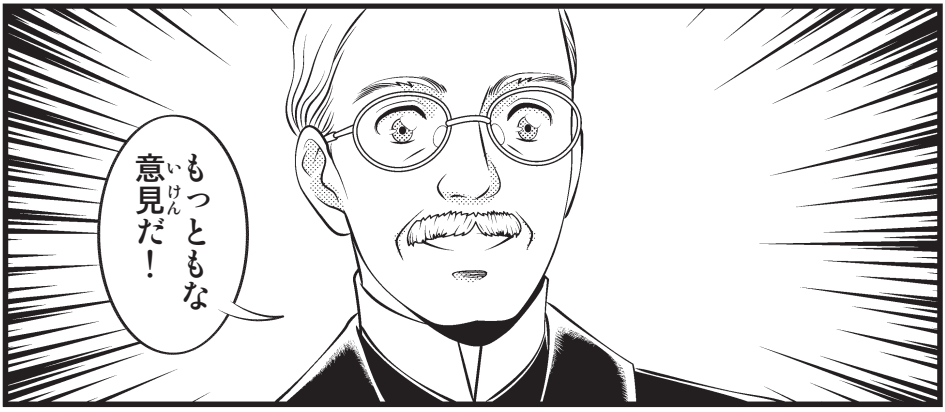
自分たちの利益だけを考えている自己満足の団体は長続きするわけがない

ロータリーに入れば商売繁盛らしいぞ

本当か！

事実発足間もなくロータリークラブは勢いに乗っていたので商売のためだけに入会を希望する人も多かった





私は職業を通じて社会に貢献することが自らの存在意義だと思っている

自分たちの利益だけにこだわって社会的になにもしないクラブに将来性も魅力も感じない

たしかに相互扶助と親睦の精神だけでは社会に必要とされる存在であり続けることは困難だ

それなら…

カーターの話を聞き対社会的な奉仕の精神が芽生えたポールはさっそく動き出す

ロータリーは地域社会に貢献するクラブになるべきだ

われら職業人の親睦のエネルギーを地元シカゴの町の発展のために使おうじゃないか！

それに賛同してカーターもロータリークラブに入会

分かりました

一緒にやりましょう！

これはロータリーに奉仕概念が取り入れられる画期的な出来事だった

うん すばらしい！

シカゴ市の最大の利益を推進しシカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める…

これを機に定款に新たな条項が書き加えられることとなる

そして1907年より当時公衆便所がなくて市民が困っているという話を耳にしたポールらはシカゴ市はじめ各方面に働きかけ1909年にシカゴの中心部に2か所公衆便所の設置を実現した

MEN

しかし…

なにが公衆便所だ

俺たちは慈善団体じゃない

ああ

俺は「仲間と一緒に儲けられる」っていうから入会したんだ

ロータリーに奉仕の理念を持ち込んだポールらに対し否定的な意見を持つ会員も多く

奉仕の推進よりもビジネスの成功に重点を置く親睦・互恵派との対立を招くこととなる

そんななか…

…儲けのためなら手段を選ばず では社会は醜いものになる

商取引は売り手 買い手の間の信頼関係が根本です

この信頼関係により長期的に利潤を得ることができ商人にとっても顧客にとっても物心両面の幸せにつながるのです

アーサー・フレデリック・シェルドン

ビジネスマンとして成功した後その経験を基に1902年にビジネススクールを開講

誇大広告 悪徳商法が蔓延する当時において利己と利他の調和を図る彼の理論は画期的なものであった

最もよく奉仕する人が最も多く報いられるのです

そんなビジネススクールのパイオニア的存在であるシェルドンとポールは共鳴し合い意気投合

1908年シェルドンは後にポールの片腕となるチェスリー・ペリーと共に入会した

ようこそロータリーへ！

シェルドン君の提唱する理論はすばらしい

ぜひロータリーにもその考えを取り入れたい！

よろこんで！

ポールは入会間もないシェルドンを宣伝拡大委員長という大役に抜擢し

奉仕の推進クラブの改革に精を出していった

しかし…

宣伝拡大委員長を解任!?

ああ

気の毒だが シカゴクラブの皆は 君らの語る「奉仕哲学」の 講釈に辟易しているようだ

私も議論で白熱した 雰囲気を和らげるために 皆で歌を歌ったりして みたが…

ハリー・ラグルス

例会毎に 奉仕哲学と 拡大の必要性を 説いてきた ポールとシェルドン だったが

大多数を占める 現状維持派の 抵抗にポールは 改革を断念して 会長を辞任

シェルドンも 宣伝拡大委員長の任を 解かれることになった

シカゴは会員数は多い分互恵・親睦重視の現状維持が大多数で改革が進まない…

ならば！

ハリスはアメリカ西部に視点を移し知人・友人のつてをたどりながらロータリークラブの拡大活動に注力

西部

中西部

南部

1908年のサンフランシスコロータリークラブの設立を皮切りに

Seattle

オークランドシアトルロサンゼルスと次々に新クラブを設立していった

チェスリー・ペリーも彼を支えさらにクラブは拡大そして…

Oakland

San Francisco

Los Angels

ついにクラブも16にまで増えたな

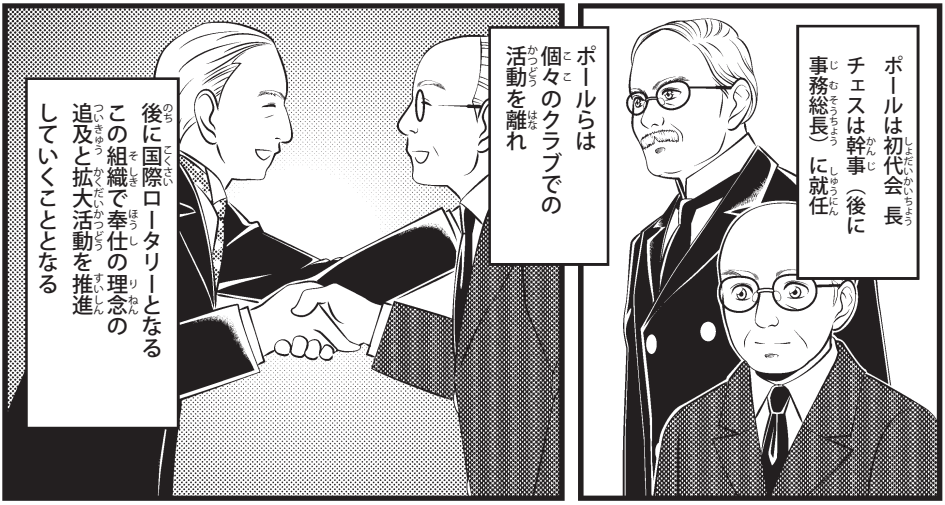
ああ シカゴクラブの大多数の現状維持派の意識を変えるにはまだ時間がかかるかもしれない

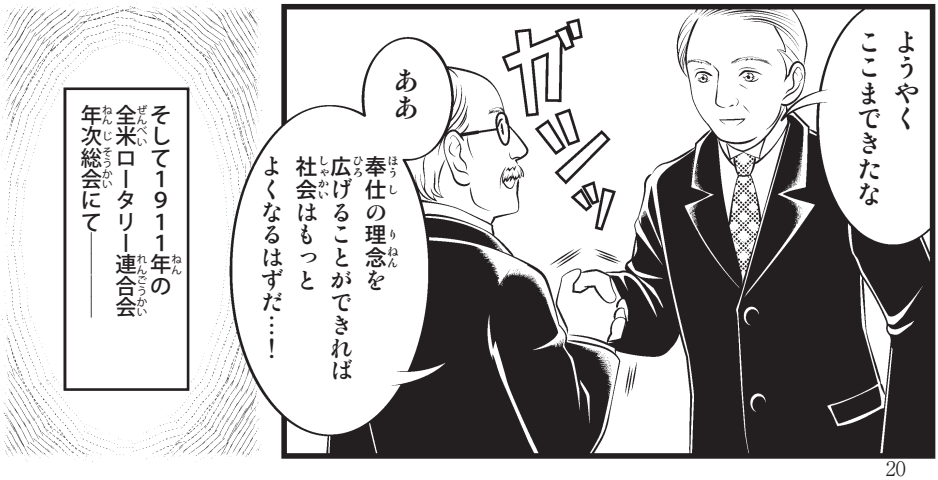
しかし今は我々の考えに賛同してくれるクラブがたくさんある

機は熟した…！

今こそロータリーを束ねる組織をつくる時だ！

こうして1910年に個々のクラブ活動を統括する組織として全米ロータリークラブ連合会が結成された





この結語は後に変化し、現在では
「One Profits Most Who Serves Best」と
言い換えられ、
「Service Above Self（超我の奉仕）」と共に
ロータリーの公式標語として生き続けている

しかしロータリーの奉仕の精神が浸透するのには時間がかかった

景気はどうだい？

まだまだ！稼ぎ足りないな

ようビル！ちょいと耳よりな儲け話があるぜ

ほう！聞かせてくれよ

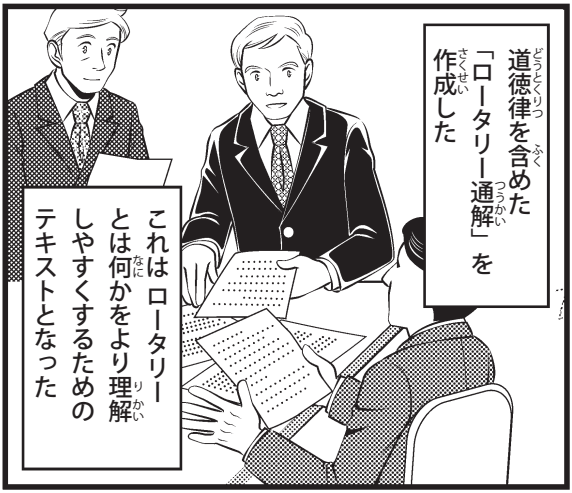
拝金主義がまかり通っている…

このままでは奉仕の理念なぞ絵空事だ
ロータリーの道徳指針を作るぞ
おお！
ロータリーの現状を危惧した国際ロータリークラブ連合会は道徳律を作るべく新たなチームを結成
世界中のロータリアンから案を募ったところ数百通の提案が集まった
こんなに！
道徳律作成チームは寸暇を惜しんで草案を作成
紙はあるか？
ガタン
ゴトン
ガタン
ゴトン
封筒の裏を使え！

500語までに凝縮された道徳律は世界中のロータリアンたちに送って研究されることになり

これをもとに1915年の年次大会で「職業人のためのロータリー道徳律」が正式に採択された

さらに国際ロータリークラブ連合会はガイ・ガンディカー（1923-24年度国際ロータリー会長）を委員長とした理論・教育委員会を結成



道徳律を含めた「ロータリー通解」を作成した

これはロータリーとは何かをより理解しやすくするためのテキストとなった

こうした人々の努力により、ロータリーの「奉仕の理念」は、少しずつ基盤を固めていったのだ

そうやって奉仕の理念が生まれたんだね

ところが話はそう簡単にはいかないんだ

えっ！どうして？

「奉仕」の捉え方に食い違いが生じたのさ

ロータリーの本質は奉仕の心を形成することです

奉仕は実践あるのみ！

こうした議論がクラブ内で勃発

行動こそが全てだ！

強制された奉仕に意味はあるのか！

クラブは奉仕を心の問題とする理論派と行動の問題とする実践派に真っ二つに分かれ組織の基盤がゆらぎ始めた

実践派の代表的な人物がエドガー・アレンだ

アレンはオハイオ州エリリアにある病院の院長で

人生を身体障害者の支援に捧げ

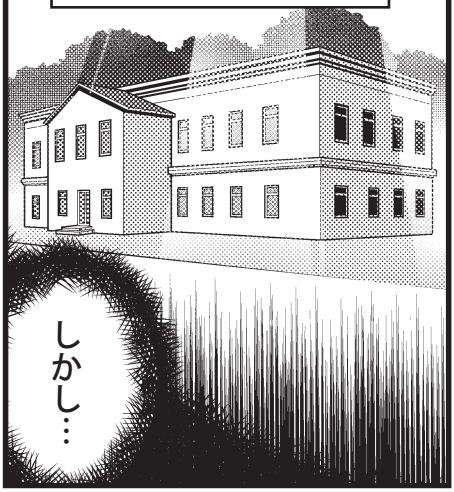
地元では〝ダディ・アレン〟と親しみ込めて呼ばれるほどの人物だった

事故で亡くなった
わが子も生きていたら
あの子らと同じ障害と
闘いながら生きている
かもしれない

この子たちのために
わが人生を捧げよう

当時、身体障害児問題に
関心を寄せるロータリー
クラブが増えており
事故で子どもを亡くした
経験を持つアレンも
ロータリーによって
障害児の救済活動を
拡大強化したいという
想いでエリリアロータリー
クラブに入会

ついには
エリリアロータリー
クラブの財源を使って
身体障害者養護学校や
身体障害児保護国際
協会の設立を成し遂げる
までに至る



奉仕の精神を一人ひとりが磨き個人奉仕するのがロータリーだ！

クラブ財源を使った団体奉仕はロータリーの奉仕ではない！

ロータリーは奉仕の精神を育むものであり奉仕の実践はその結果自然にもたらされるものだという理論派の激しい批判を浴びることとなる

身体障害児支援を通してロータリーの社会的信用を高めることに貢献したアレンだったが

理論派の非難に5年間悩み続けついに想いをつづった手紙をポール・ハリスに差し出すことにした

私はクラブの財源を使って
身体障碍者養護学校の
設立を成し遂げました

じかし理論派の
ロータリアン達は
それはロータリーの
本質的な奉仕では
ないと言って
責めてきます

思い悩んだ末
貴方ならこの苦しみを
救ってくれるに違いないと
この手紙を差し上げました

こうした顛末を
知ったポールは

皆がアレンを責める
理論が間違っている
とは思わない

だからと言って
アレンが実践している
奉仕がロータリーに
反することだとも
思わない

だからこそ

この問題について両論を調和させる道があるはずだ
次の国際大会で正式な議決を取りましょう！理論と実践は矛盾してはならないのです！
おお…！
こうして10年を超える理論派と実践派の対立に終止符を打つ瞬間がやってくる
1923年
障害児支援を強制するこの決議23－8は断じて受け入れることはできない！
山積する社会の課題を解決せずしてなにが奉仕であるか！目の前で困っている人を救うことこそが奉仕ではないのか！

こうして先に提示された決議23-8を撤回し、
ロータリー哲学の定義、ロータリークラブと国際ロータリーの
機能分担、奉仕の実践に関する原則を明確に区分し
確定する案が採択された

これが後に名を遺す
1923年セントルイス国際大会における決議34号
通称「決議23-34」だ

解説編①　ロータリーの創立と奉仕概念の芽生え

ロータリーの創立

ロータリーの創始者、ポール・ハリスは１８６８年　アメリカ、ウィスコンシン州、ラシーンに生まれました。しかし１８７１年、父、ジョージが事業に失敗、破産と一家離散という最悪の状態になり、祖父母に育てられることになります。ですが、決して不遇な少年時代ではなく、厳格な中にも愛情あふれる家庭でした。この生活がポールの心に強いピューリタニズムを植え付け後のロータリー思想の根底となりました。

ポール・ハリスは気が強く、学生時代は人ともぶつかりましたが、祖父からの叱責で目覚め、理性と責任感ある青年に変身しました。祖父の死後は弁護士試験に合格するものの、将来への目標がさだまらずサンフランシスコを皮切りに１８９１年の夏から、アメリカ国内、ヨーロッパ放浪の旅、「5年間の愚行」（Five years of folly）が始まりました。この5年間の友人や経験がポールに大きな影響を与えました。

１８９６年、シカゴにおいて弁護士事務所を開設します。しかし事務所は当初は軌道にのらず、

また当時のシカゴは、人口の急激な都市集中化により、繁栄はしていましたが、その商業道徳は地に落ちた感のある街でありました。ポール・ハリスは急激に人口が増え管理体制ができていないシカゴの中で、新しい職業人の活動を考えはじめます。そして同業者は仲がよくないことが多いが、異業種の職業人同士は結構仲がよいことに気づきます。それをヒントとして、1つの職種から1人を会員とする職業人のクラブができれば、人々の心の渇きをいやせると思ったのです。

そのような中、ポール・ハリスはほかの3人の仲間と1905年2月23日、シカゴ、ディアボーン街127番地・ユニティビル711号室で会合を開きました。これがのちのロータリークラブ設立の最初の会合となります。この時のメンバーが、ガスターバス・ローア鉱山技師、シルベスター・シール石炭商、ハイラム・ショーレー洋服生地商の3人です。

ロータリーが出来た当初、奉仕の概念はありませんでした。1業種1人という限定会員制度の社交クラブの目的、それは会員同士で行う商売、すなわち物質的相互扶助（お金儲け）と会員相互の親睦を深めることが目的だったのです。

ドナルド・カーター事件　奉仕概念の芽生え

ロータリーの活動がすすんできたころ、弁理士のドナルド・カーターという人物を勧誘します。ところがドナルド・カーターから「断る。自分たちだけが定期的に集まって、肩と肩とを寄せ合って、皆が仲良しになって、挙句の果てに商売が繁盛する……。自分たちだけ良ければそれでいいのか。」という強烈な言葉をうけます。ポール・ハリスはその言葉を聞き反省、それであるならばわれわれ

が得たものを社会に還流していこうではないかと決意します。ロータリーの活動が奉仕の概念に結実していく重要な出来事でした。

シカゴクラブ最初の奉仕　公衆便所の建設

このことがきっかけとなり、地域のために貢献できないかと考えるようになっていきました。1906年ごろには公衆便所の建設を計画します。その為に献金を募り、それだけでは不足する金額を民間から募り、最後はシカゴ市議会まで談判するという3年がかりでシカゴ市内2か所に公衆便所の建設を致しました。

ポール・ハリス会長就任

1907年、設立当初は会長職を譲っていたポール・ハリスが自ら会長になります。その場で「われらの個人的利益のために集まるのはロータリーにあらず。団体内の親睦にのみエネルギーを注ぐのではなく、世のため、人のためになる行動に出てこそ初めてロータリー活動は活きていくのだ。」と説いたのです。しかしながら、商売で儲けようとする親睦派と、いや、世のため人のための奉仕も大切だとする奉仕派との対立が生まれました。ポールはクラブに世のため、人のためと言う奉仕の考え方を導入するとともに、ロータリーをもっと拡大し他の都市にも拡げようとしました。シカゴクラブ内には、ポールの新しい考え方を受け入れられない会員もいて、例会を欠席する者も出始める事態となります。

解説編②　シェルドンと奉仕の理念

シェルドン入会

１９０８年、ハリー・ラグルスの紹介でアーサー・フレデリック・シェルドンとチェスリー・ペリーがシカゴロータリークラブに入会しました。シェルドンは自身でビジネススクールを経営しており、そこでは商取引は売り手、買い手の双方が満足しないと成り立たない、双方の信頼関係が無ければ安定した利潤を上げる事が出来ないと説きました。継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく他人に対してサービスする、自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営む事が必要であると力説、物質的な相互扶助に頼らずに、継続的に利益をあげて事業を発展させる経営手法として職業奉仕理念を説いたのです。これを実践する為の言葉として「He profits most who serves best」を１９１１年の全米ロータリークラブ連合会ポートランド大会で発表し、喝采を浴びました。

ポール・ハリス会長辞任

ポール・ハリスは利己と利他の調和という奉仕理念の追求とその普及を推進するため全米にクラ

ブの拡大を試みます。これを実現させる為宣伝拡大委員会を作り委員長にシェルドンを任命しました。シェルドンはこの概念の普及に努めましたがあまりに熱中したため親睦が阻害される事態となり会員の反発を招く事となります。ついにシェルドンの宣伝拡大委員長解任動議が提出可決され解任に追い込まれました。ポールもこの責任を取って病気を理由に会長職を辞任しました。そしてクラブ長老の収拾案に基づき、次の会長にはハリー・ラグルス、宣伝拡大委員長にはチェスリー・ペリーが選ばれました。

全米ロータリークラブ連合会の発足

チェスリー・ペリーは、ポール・ハリスの心を理解した上で、サンフランシスコ、オークランド、シアトル、ロサンゼルス、ボストン、ニューヨーク等全米に15のクラブを作りました。チェスリー・ペリーは奉仕哲学を追求し、ロータリーを拡大させる事と親睦を深めるという相反する２つを調和させる為、奉仕哲学の追求、ロータリーの拡大、情報の媒介の３つの機能を預かりこれだけを行使する独立した専門事業団体を作りそこに委託する事を考えました。これが１９１０年に発足した全米ロータリークラブ連合会です。これは、１９１２年に国際ロータリークラブ連合会となり、さらには１９２２年に国際ロータリーと改称され発展していきました。

事務総長チェスリー・ペリー

１９１０年全米ロータリークラブ連合会は、それを構成する各クラブの承認決議を得て正式に発

足し、初代会長にポール・ハリス、初代幹事にチェスリー・ペリーが選ばれました。設立初年度、チェスリー・ペリーが受け取った書簡2，500通、送った書簡6，000通これをすべて手動タイプライターで打ったと言われています。1912年に国際ロータリークラブ連合会に改称された際、幹事は事務総長と名称が変わりました。チェスリー・ペリーはこの後30年に亘りこの職務に携わりました。

連合会と各クラブの関係は、どちらが上か、どちらの組織が他を統括するのかの議論がありましたが、連合会はあくまで各ロータリーの連合組織であり、各クラブは主体性を持ち、それぞれの会長・幹事が統括し、会員はそれぞれのクラブにて活動をする。連合会は上記の奉仕哲学の追求、ロータリーの拡大、情報の媒介を行う組織として、各クラブと連帯して活動を拡大して行く役割を負っております。

ポール・ハリスは、事務能力、組織管理能力に優れたチェスリー・ペリーがいなかったら、国際ロータリーという、民主的でかつ合理的な組織は出来なかったと言っています。

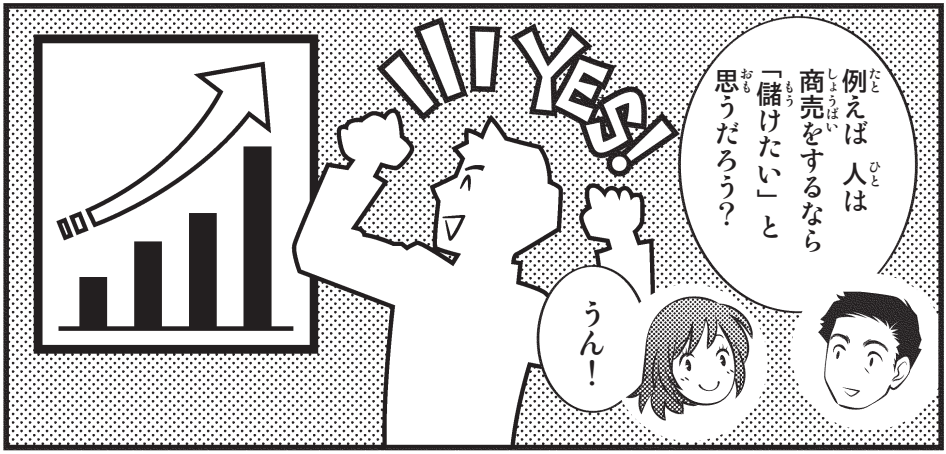
ポール・ハリスの連合会会長就任

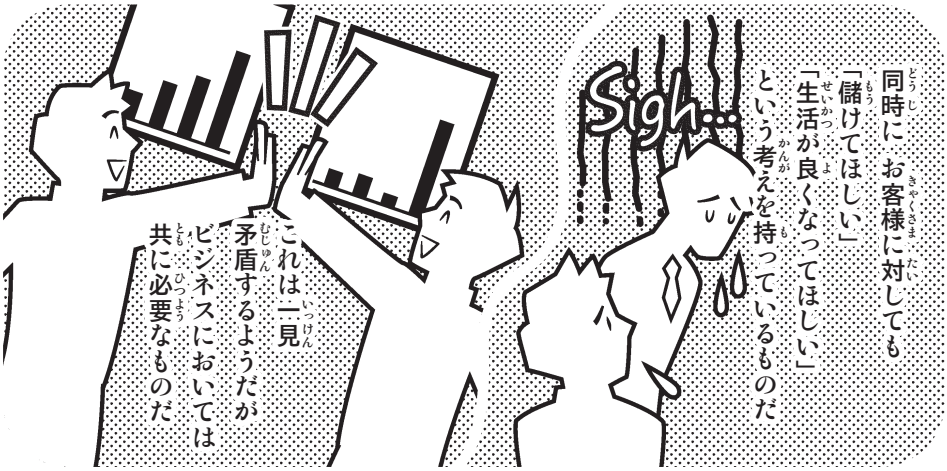
全米ロータリークラブ連合会が出来た時、会長はその時あった15クラブの親クラブであるシカゴクラブから出すべきとされましたが、誰が適任かシカゴクラブ内で紛糾しました。

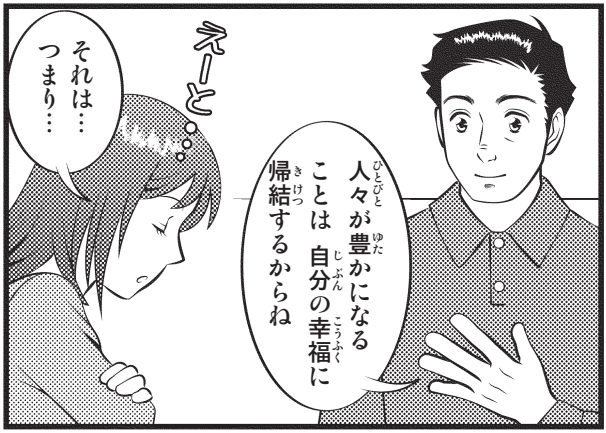
しかし、当時クラブ会長であったエー・エム・ラムジーがロータリー始祖のポール・ハリスが適任であると発言し、ポールに決定しましたがそれまでに10ヶ月を要しました。その年度残りの期間

が短かったのでポール・ハリスは翌年1年間延長して会長を務めました。
ワンイヤールールのロータリーで1年を超えて会長職を務めたのは、この時のポール・ハリスを除いて誰もおりません。

こうやって奉仕の理念が培われていったという訳さ
ところでロータリーの「奉仕」ってボランティアをしようってこと？
少し違うね
ボランティアは素晴らしいけれどロータリーは組織として様々な奉仕活動に取り組んでいるんだ
何より大切なのは他者への奉仕が自分の幸福につながるという考え方だよ
？


例えば 人は商売をするなら「儲けたい」と思うだろう？
うん！
YES!


同時に お客様に対しても「儲けてほしい」「生活が良くなってほしい」という考えを持っているものだ
Sigh…
これは一見矛盾するようだが ビジネスにおいては共に必要なものだ


人々が豊かになることは 自分の幸福に帰結するからね
えーと
それは…つまり…

あっ
「情けは人のためならず」ってこと？

第1項では「ロータリーは一つの人生哲学である」と記されている

【第1項】

ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。

この哲学は奉仕－「超我の奉仕」－の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

第2項では、ロータリークラブが実践理論をもとに何を実行すべきかが記されている

【第2項】

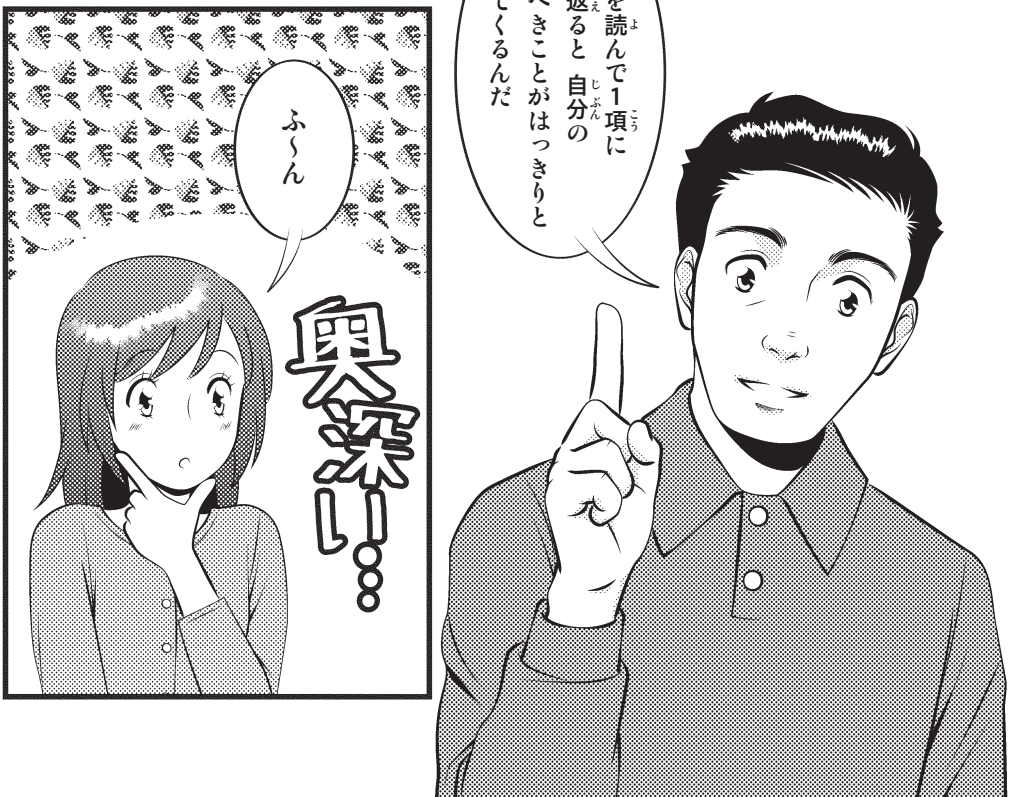
本来ロータリークラブは、事業および専門職務に携わる人および地域社会のリーダーの代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。

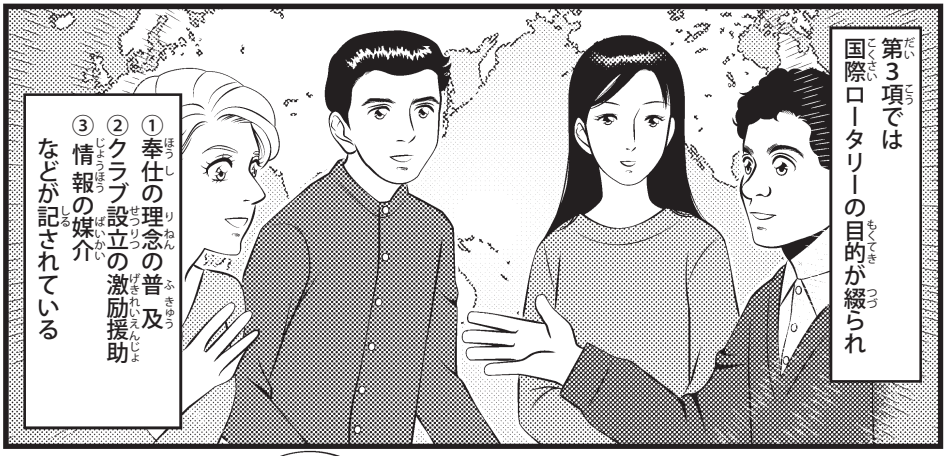
■まず第1に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。

■第2に、自分たちのあいだにおいても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと。

■第3に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。

■そして第4に、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外のすべての人々が、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。

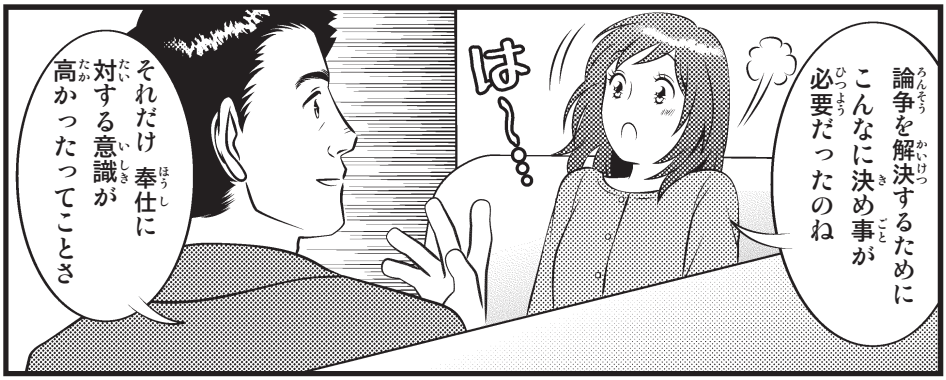


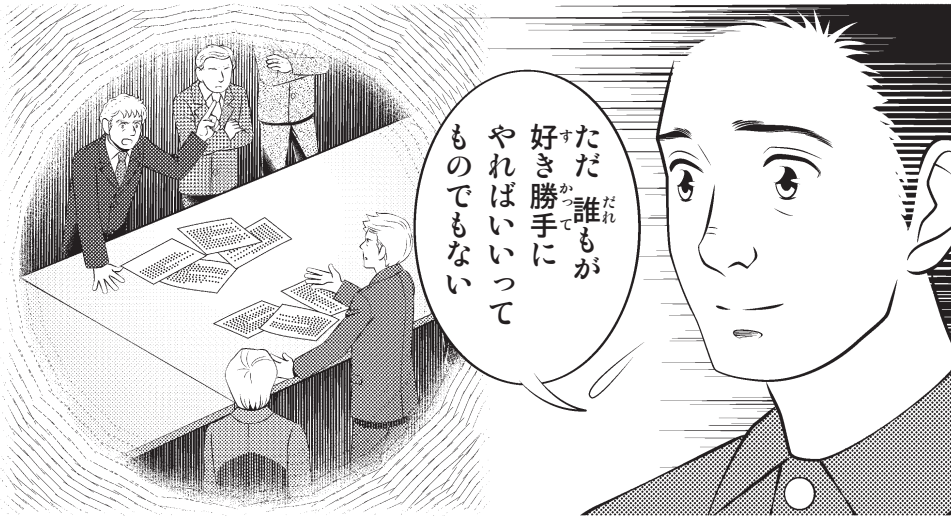

第3項では
国際ロータリーの目的が綴られ
①奉仕の理念の普及
②クラブ設立の激励援助
③情報の媒介
などが記されている

そして第4項
ここでは奉仕が画餅に
終わらないようきちんと
行動しましょうという
ことが書かれている
つまり ここに
実践派の人たちの
意見が取り入れ
られている！
正解！

次に第5項
ロータリークラブの活動は
ロータリーの目的に
基づくものでなければ
ならないこと そして国際
ロータリーが各クラブに強制力
を持たないことが記されている

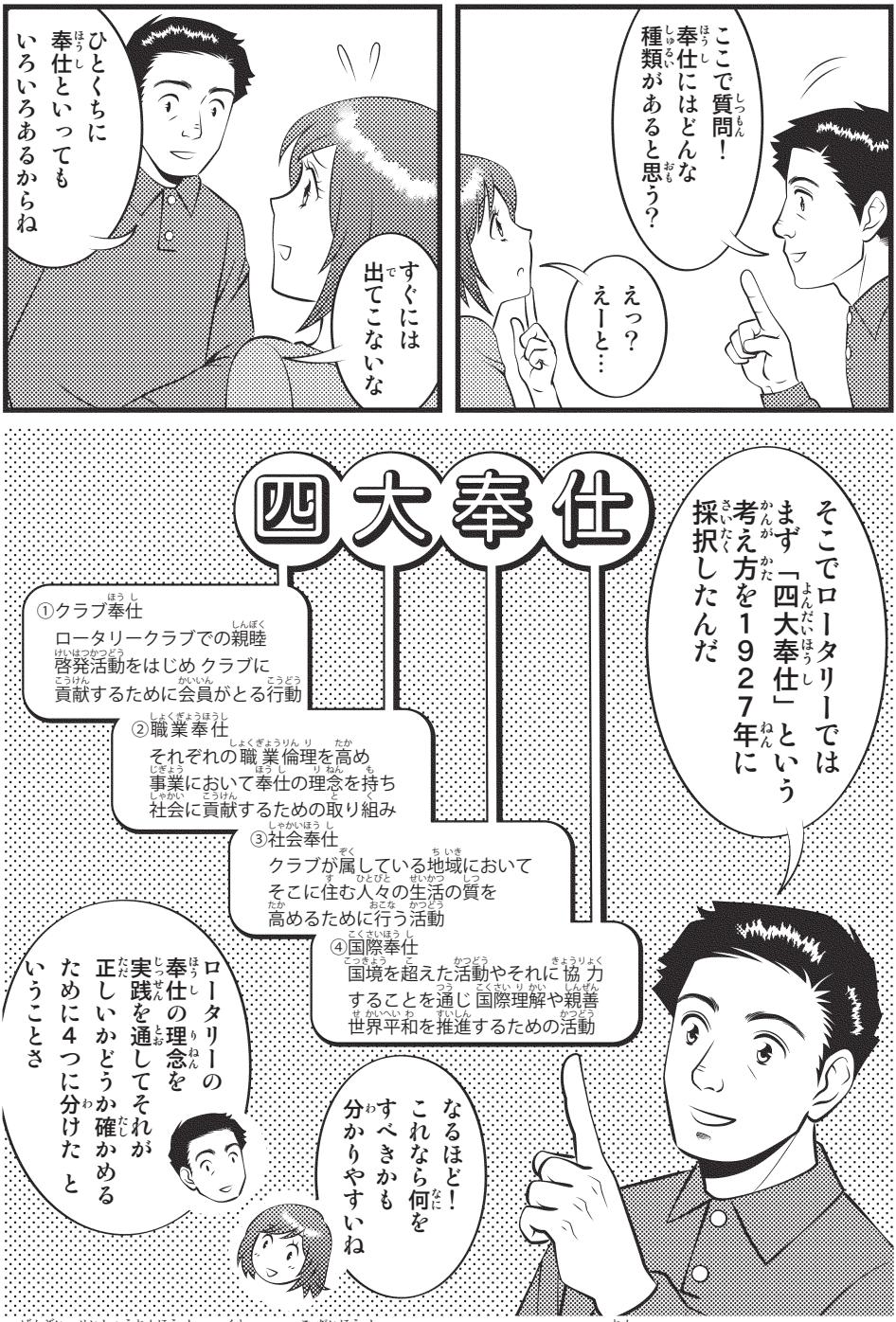
そして第6項には
奉仕活動に関する
指針が具体的に
書かれているんだ
パラ…


論争を解決するためにこんなに決め事が必要だったのね
は〜〜〜
それだけ奉仕に対する意識が高かったってことさ


ただ誰もが好き勝手にやればいいってものでもない

組織としてやっていくにはみんな同じ方向を向いてなきゃいけないからね
なるほど

この決議23-34は、国際ロータリー、
およびロータリークラブの指針として
提案されたものであり、ロータリーの目的に基づく
全ての活動の指針であると同時に、
ロータリーの**奉仕の理念を表す唯一のドキュメント**となっている



＊現在は青少年奉仕を加えた五大奉仕となっています（2013年～）

ところで四大奉仕が採択されたのが1927年 その2年後には何が起きた？

2年後…1929年？

…あ 世界恐慌！

1929
とくにくるしい大恐慌

正解

その荒波にロータリーも飲みこまれていくんだ

1929年アメリカでの株価大暴落を皮切りに起きた世界恐慌

退会だと？

今こそロータリーのような組織が必要とされているのに！

それどころじゃないんだ！会社が潰れちまう

君も自分のことを考えたほうがいいぜ

バタン

経済の悪化に比例して退会者が増加

ロータリーは存続の危機に直面同時に世界は戦争へと向かっていく

しかし逆境にあっても
ロータリアンの信念は
確実に生き続けていた

ハーバート・テーラー
シカゴ・ロータリー
クラブ会員

こんな時だからこそ
職業倫理が大切だ！

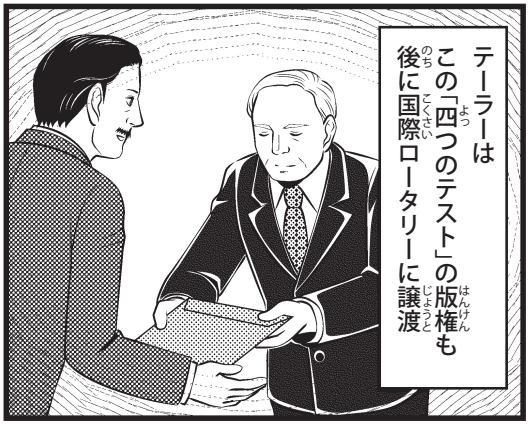
テーラーは「言行はこれに照らして
から」という前提で「四つのテスト」を
作成 自社の社員に道徳観を示した

THE FOUR-WAY TEST
of the things we think, say or do
first:
Is it the TRUTH?
second:
Is it FAIR to all concerned?
third:
Will it build GOOD WILL
and BETTER FRIENDSHIPS?
fourth:
Will it be BENEFICIAL to
all concerned?

その話が
シカゴ・ロータリー
クラブの会員の耳に
入り――

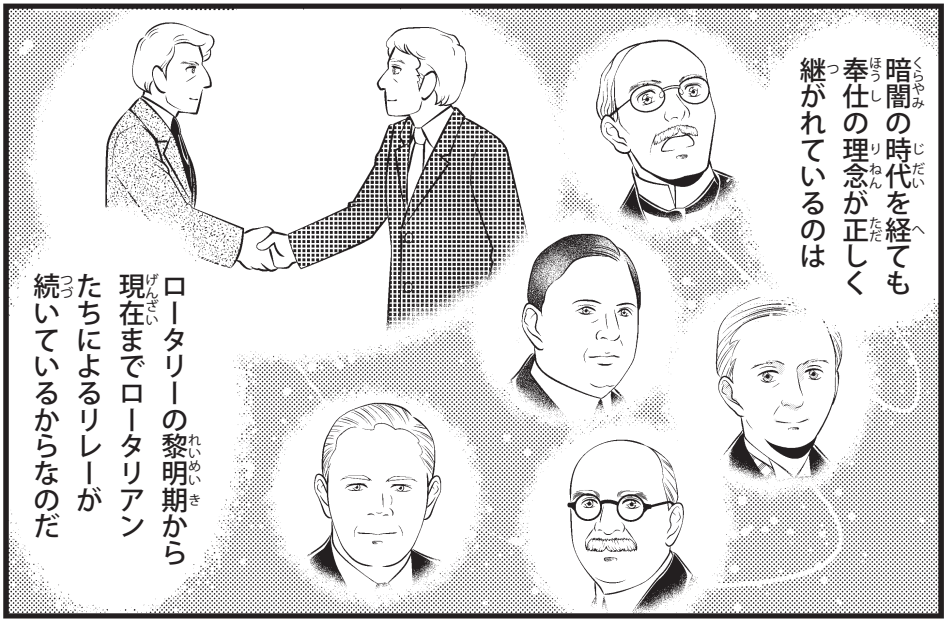
ぜひロータリー
クラブの指針と
して使いたい！

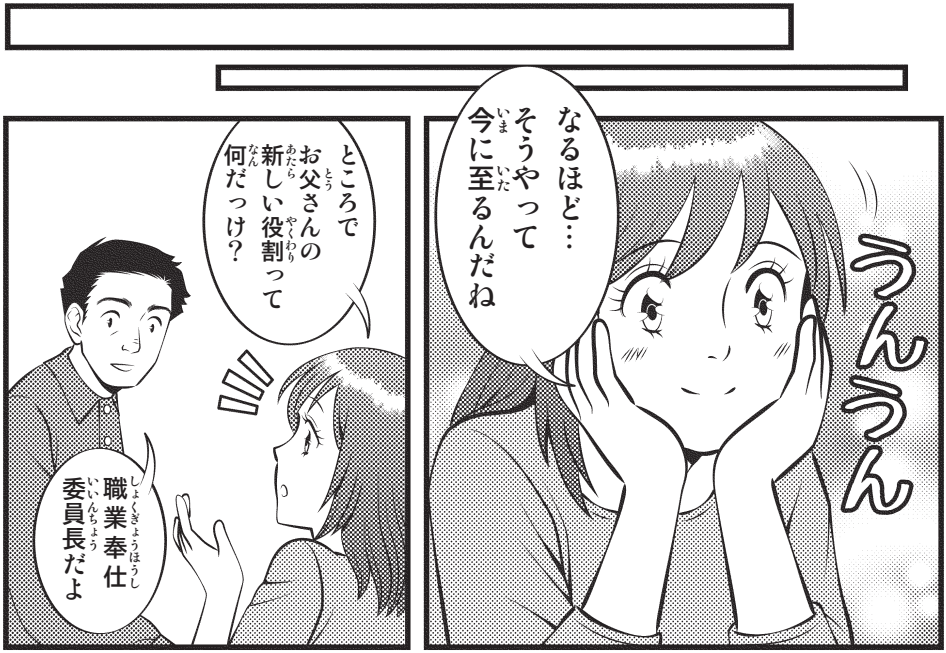
喜んで！


テーラーは
この「四つのテスト」の版権も
後に国際ロータリーに譲渡

1943年には
国際ロータリー
理事会が正式に
採用した

やがて戦争が終わり
ロータリーには
人々が集いはじめ
活動もさらに
広がって行った


暗闇の時代を経ても
奉仕の理念が正しく
継がれているのは
ロータリーの黎明期から
現在までロータリアン
たちによるリレーが
続いているからなのだ

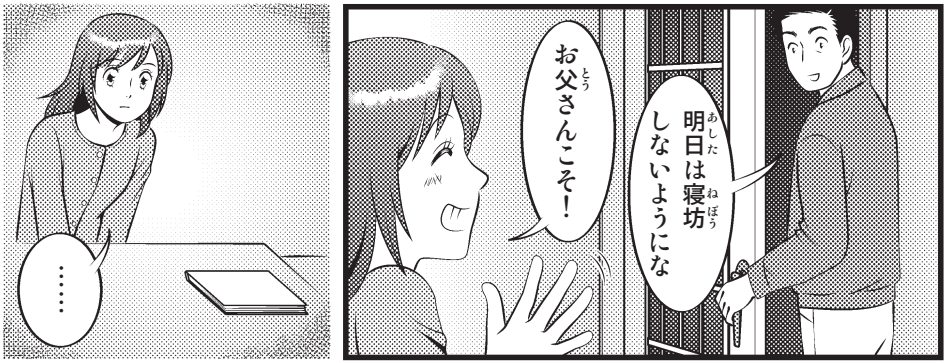


ロータリーの奉仕の理念はこの2つだ

「Service abobe Self」
（超我の奉仕）

「One profits most who serves best」
（最もよく奉仕する者　最も多く報いられる）

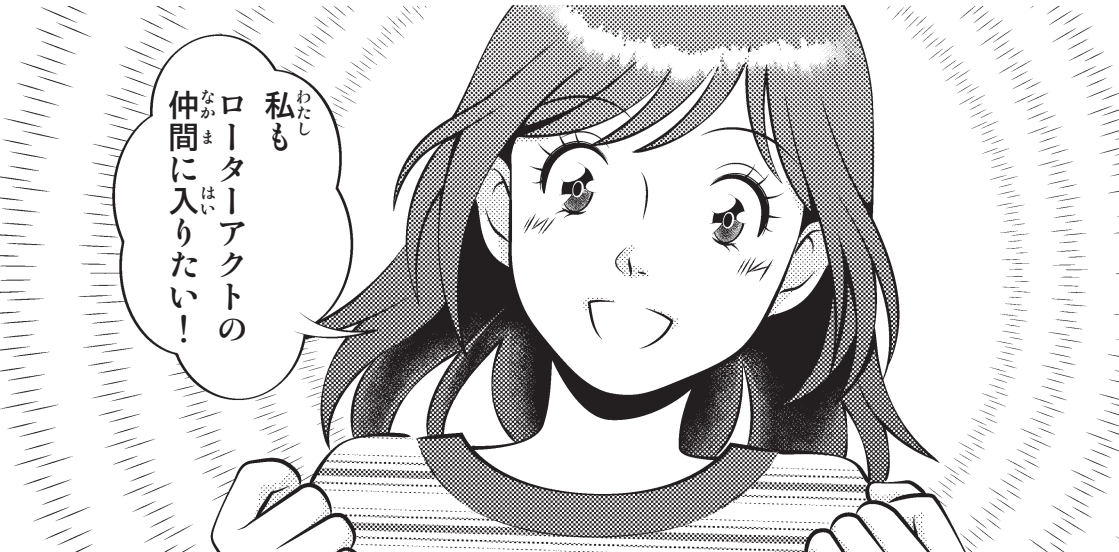
その大役を果たすために本を読んで勉強し直していた…と
その通り！
パタン
でも いい復習の時間になった
ロータリーの奉仕の理念は一〇〇年前に生まれたんだ
それが今も受け継がれているのは「誰もが幸せになれる社会をつくる考え方」だからなのさ
話に夢中になってすっかり遅くなってしまったな


明日は寝坊しないようにな
お父さんこそ！
……

数日後―

梓～
あ 彩夏おはよっ！

ねぇ ひとつお願いがあるんだけど
はいはい何でも聞きますよ！


私もローターアクトの仲間に入りたい！

お父さん！
ぺこっ
彩夏！
指定ゴミ袋
新米ローターアクター頑張ってるね！
もちろん！
海洋汚染の解消のため指導も宜しくお願いしますよ
まかせてください！
おや娘さんでしたか
会長！

奉仕の理念が若い人に受け継がれていくのは素晴らしいことです

会長今日はありがとうございました

おかげ様で娘も最近変わったというか成長したというか

それはよかった

奉仕は他者に向かうものであると同時に自分に返ってくるものでもありますからね

みなさん今日は清掃活動お疲れ様でした

参加してみてどうでしたか？

最初にロータリーのこととか奉仕活動のこととか聞いたときは正直いまいちピンと来てなかったけど…
今日みたいに実際に活動をしていくなかでなんとなく「超我の奉仕」「最もよく奉仕する者が最も多く報いられる」っていう言葉の意味が実感できてきた気がします
そうそう 私もいろんな活動を通して 少しずつ「奉仕の理念」って何なのかわかるようになってきた気がする！
それはよかった「奉仕の理念」は人生における成功と幸福の 真の基礎です
これからの活躍と成長も楽しみにしてますよ
はい！これからもよろしくお願いします！

―数十年後―

…奉仕活動は目立つことをやればいいというわけではない！

そんなの ただの人気取りじゃないか

人気取りと言われようが実践して認知されなければ社会に奉仕しているなんて言えないじゃないか！

……まぁまぁ

お二人がおっしゃることは最もですしどちらも間違っていません

彩夏は地域のロータリークラブの会長に就任していた

会長！

私も若い頃最初はよくわからなかったけどいろいろな活動を重ねるなかでロータリーが掲げる「奉仕の理念」がなんなのかが少しずつわかってきた気がします

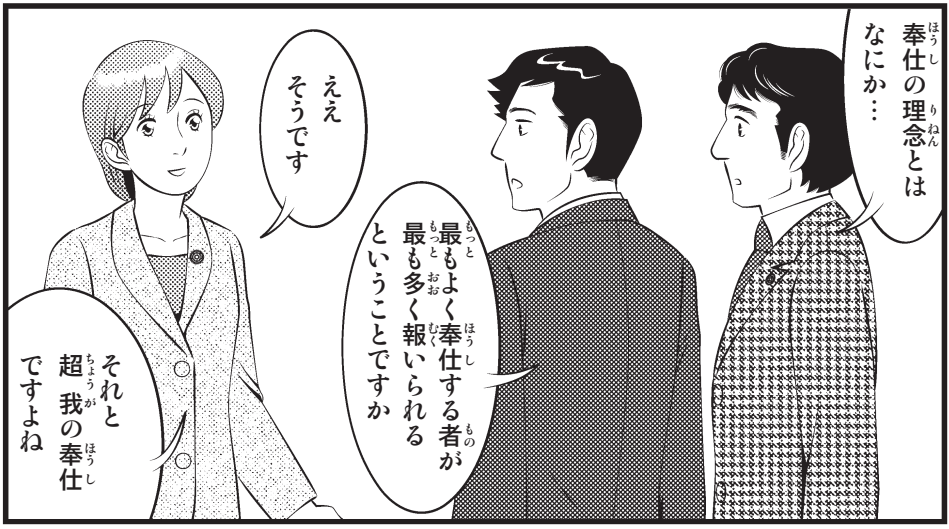
ビシッ

おかげで自分を磨くことができたと思いますし

こうやって会社を経営してロータリーにも参加して社会に恩返しができるようになったと思います

実践も大事ですがなにより「奉仕の理念」をもって実践にあたることが大事です

活動ありきの前に今一度「奉仕の理念とはなにか」を考えて一人ひとりができることを考えましょう



私も昔ロータアクターだったころ
ポリオワクチンの投与活動に参加して
衝撃を受けたことを今でも覚えています
心に奉仕の理念を抱いて
行動を起こすことが大事なのです
END POLIO NOW
あの日 私は
世のため 人のために
役立てる人になりたいと
誓いました
だから
"Ideal of Service"
(奉仕の理念)を
掲げる父の会社を
継いだのです
うんうん
そうだった…
私はいかに
インパクトのある
奉仕活動をするかで
頭がいっぱい
だったようだ
いや 奉仕の
理念をもって
行動することが
大事なんだ
活動を通して
その精神を
伝える方法を
一緒に考えよう
じゃないか

皆さんは奉仕の理念をしっかりと心のなかに修めていますか？
「超我の奉仕」そして「最もよく奉仕する者が最も多く報いられる」活動を通して奉仕の理念を学び育んでいくことが大切です
皆さんは奉仕の理念に基づいた行動や活動ができていますか？
ぜひ皆さんのクラブでもこの点についてフォーラムを開いたりディスカッションを行ったりして奉仕の理念の理解を深め理念を携えて行動に移してくださいね

解説編③　ロータリー倫理訓（道徳律）

ロータリー倫理訓（道徳律）の制定

１９１１年にロータリーのモットーとして職業奉仕理念が採択されたにも拘らずロータリアン同士の取引、物質的相互扶助はまだまだ根強いものがありました。その為、１９１３年のドゥルース大会でロータリアンが如何にして職業倫理を高めるかという指針の作成を次年度のヒューストン大会に提案することが決議されました。この指針作成のため世界のロータリアンからアンケートを取りそれを纏める事になりましたが、その完成はヒューストン大会を経て１９１５年サンフランシスコ大会で「全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓」として採択されました。１９１６年にガイ・ガンディカー（１９２３年～２４年ＲＩ会長）がクラブ運営管理のテキストとして奉仕概念を集大成した「ロータリー通解」に掲載され多くのロータリアンの道標となりました。現在では歴史的文献とされ、国際ロータリーの公式資料には掲載されてませんが「奉仕の理念」の真髄を表しており現在においてもロータリアンの指針と言えるものであると考えられます。

下記にその前文を掲載いたします。

全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓

この職業倫理基準は、我々の共通な人間性に基づく思いやりを心に留めるものである。職業上の取引や野望や諸関係は、常に社会の一員として自分が果たす最高の義務を考慮すべきである。職業生活のあらゆる場面において、また、自分が直面するすべての責任において、先ず最初に考えなくてはならないことは、その双方を終えたときに初めて果たされる責任と義務を満たすことである。人間の理念と業績の水準をそれに気づいたときよりも、少しでも高めなければならないし、このことを考えることこそ、ロータリアンとしての私の義務である。

第1条　自分の職業は価値あるものであり、社会に奉仕する絶好の機会を与えられたものと考えること。

第2条　自己改善を図り、実力を培い、奉仕を広げること。それによって、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリーの基本原則を実証すること。

第3条　自分は企業経営者であるが故、成功したいという大志を抱いていることを自覚すること。しかし、自分は道徳を重んじる人間であり、最高の正義と道徳に基づかない成功は、まったく望まないことを自覚すること。

第4条　自分の商品、自分のサービス、自分のアイディアを金銭と交換することは、すべての関係者がその交換によって利益を受ける場合に限って、合法的かつ道徳的であると考えること。

第5条　自分が従事している職業の倫理基準を高めるために最善を尽くすこと。そして、自分の仕事

のやり方が、賢明であり、利益をもたらすものであり、自分の実例に倣うことが幸福をもたらすことを、他の同業者に悟らせること。

第6条　自分の同業者よりも同等またはそれに優る完全なサービスをすることを心がけて、事業を行うこと。やり方に疑いがある場合は、負担や義務の厳密な範囲を越えて、サービスを付け加えること。

第7条　専門職種または企業経営者の最も大きい財産の一つこそ、友人であり、友情を通じて得られたものこそ、卓越した倫理にかなった正当なものであることを理解すること。

第8条　真の友人はお互いに何も要求するものではない。利益のために友人関係の信頼を濫用することは、ロータリーの精神に相容れず、道徳律を冒涜するものであると考えること。

第9条　社会秩序の上で、他の人たちが絶対に否定するような機会を不正に利用することによって、非合法的または非道徳的な個人的成功を確保することを考えてはならない。物質的成功を達成するために、他の人たちが道徳的に疑わしいという理由から採らないような、有利な機会を利用しないこと。

第10条　私は人間社会の他のすべての人以上に、同僚であるロータリアンに義務を負うべきではない。ロータリーの神髄は競争ではなくて協力にあるからである。ロータリーのような機関は、決して狭い視野を持ってはならず、人権はロータリークラブのみに限定されるものではなく、人類そのものとして深く広く存在するものであることを、ロータリアンは断言する。さらに、ロータリーは、これらの高い目標に向かって、すべての人やすべての組織を教育するために、

存在するのである。

第11条　最後に、「すべて人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ」という黄金律の普遍性を信じ、我々が、すべての人にこの地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである。

（田中　毅訳）

解説編④　決議23－34の背景

身体障害者福祉問題

シェルドンによって提唱された奉仕の理念はロータリー通解をもって確定した後、その後のロータリー活動はこの理念の実践のため「道徳律」を適応し職業奉仕を実践するかという運動に変わって行きます。そこで問題になったのは奉仕活動の実践を巡る対立でした。ロータリー運動を実際的な社会奉仕活動を実践する場として捉え、社会的弱者救済活動として身体障害児救済活動の展開が起こります。

１９１４年のある日、その年の国際ロータリークラブ連合会会長を務めたマルホランドが貧しくて体が不自由な少年を目にしたことで、身体障害者も無料で教育が受けられるようにクラブの名を使って養護学校設立運動に挺身します。その頃、エリリアロータリークラブに一人息子を事故で亡くした悲しい体験を持つエドガー・アレンというロータリアンがいました。彼はその話を聞き、自分もお金を出し、自身のクラブにも協力してもらって身体障害者養護学校を造りました。さらに全米身体障害者養護協会を立ち上げ、この運動に積極的に取り組んだ結果、この運動が全米の市民にも理解され、ロータリー運動の評価も上がりました。

理論提唱派と奉仕実践派の対立

ここに自己研鑽と会員同士の切磋琢磨により奉仕の心の形成を育み、職業倫理を高めてゆこう、奉仕活動は個人の立場で行うべきという考えの理論提唱派と、社会的弱者に対し人道的奉仕をクラブとして実践しようという奉仕実践派の間で大論争が起こり、ロータリー分裂の危機に陥りました。

奉仕実践派で熱心なアレンを理論提唱派のシェルドンは「全米の問題をロータリークラブが解決すべきだというようなことになると論外だ。ロータリーの奉仕は個人奉仕が本質であり、団体奉仕は筋が違う」と非難しました。数々の非難を5年間も受け続けたアレンは、思い悩んだ末、1922年にロータリーの創立の祖、ポール・ハリスに自分の思いを綴った手紙を書きます。ポールは「あなたに反対する人たちの考えは間違っていない。しかし、あなたの活動がロータリー運動に反するとも思えない。両方が調和し解決が図れるよう次の国際大会で議題の提案を提出したい」と返事をし、ナッシュビルロータリークラブの会員で1936～37年国際ロータリー会長を務めるウィル・メーニァ・ジュニアが提案書を書き上げ、1923年のセントルイス国際大会に34号議案として提案を行いました。そうして生まれたのが「決議23－34号」です。

解説編⑤　決議23－34の意義と内容

「決議23－34」の意義と第1項

「決議 23－34」はロータリーの奉仕理念を示した唯一のドキュメントです。奉仕の理念を理解するためには「決議23－34」を理解することが必要ということです。早速、紐解いていくことにしましょう。

「決議23－34」のタイトルについて

２０２２年版手続要覧を開くと、ロータリーの基本理念の中に「社会奉仕に関する１９２３年の声明」が載っております。このタイトルは１９２３年にセントルイス国際大会で採択された当時は「綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針を再確認し国際ロータリーとロータリークラブにおける今後の手引きとなる原則を定めること」でした。これが１９２６年のデンバー国際大会でタイトルが「社会奉仕に関する １９２３ 年の声明」に変更されました。しかしながら１９２３年当時は社会奉仕（Community Service）に関する指針として定められたものではありません。Community の意味は広く社会全体を現す言葉であり、その序文に「ロータリーにおいて社会奉仕

とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理念を適用することを奨励、育成することである。」と明記されていることからも明らかです。ここで言う「社会奉仕」は広い意味での社会に対する奉仕全般を指しており、ロータリー活動の全てに関する指針であることに着目する必要があります。

「決議23－34」の意義

ここでは、１９０５年にポール・ハリスによって創立されてから、１９２３年に「決議23－34」が採択されるまでの間、ロータリーではどのような思想や考え方の変遷や対立があったのかを振り返ってみたいと思います。「決議23－34」はそのような対立の解決策としての歴史的意義があるのです。

創立当時は、親睦とお互い原価の取引をすることで事業の利潤を追求する物質的相互扶助を目的としていました。その後地域社会に対する奉仕、という考え方が取り入れられます。そこで当初の親睦と物質的相互扶助を求める会員との対立が生まれます。１９０８年アーサー・フレデリック・シェルドンが唱える「He profits most who service best･最もよく奉仕する者､最も多く報いられる」をロータリーが導入、その後ロータリーは奉仕の理念・職業倫理の向上を追求します。この考えの基、ロータリーの本質は親睦の中に自己研鑽と会員同士の切磋琢磨により奉仕の心を育み人格を形成することにあり、奉仕活動は個人の立場で行うべきとする理論提唱派と、その一方で奉仕の心を奉仕活動の実践に移さなければ無意味であり奉仕活動はクラブとして行うべきとする奉仕実践派と

の対立が生まれました。特に１９１２年頃からはそれらの対立が激化しますが、これを解決に導いたのが「決議23－34」でした。

「決議23－34」のメッセージは、ロータリーの根本精神は「奉仕の理念」にあり、私たちの全ての個人生活、職業生活、社会生活の中に「奉仕の理念」が実践されていなければならないということです。各項において上記で述べた各対立の解決策が具体的に整理され、ロータリーの基本哲学、それに基づくロータリークラブとロータリークラブが行う奉仕の在り方が明確に示されております。

「決議23－34」第１項

第１項ではロータリーとは何かについて述べられています。ロータリーの目的にある「奉仕の理念」すなわち奉仕の哲学を明解に定義した条文として重要な価値があります。

「ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕（Service above self.）」―の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる（He profits most who serves best.）」という実践的な倫理原則に基づくものである。

この人生哲学が「奉仕の理念」です。「奉仕の理念」の意味するところは、他人のことを思いやり他人のために尽くす事、言い換えるとロータリーは利己と利他との調和を目的とする人生哲学と

言えます。これは自分と他人を分けないで考える心、すなわち「人の喜びや悲しみを自分の喜び、悲しみと受け取る心」です。

こうした奉仕の基礎になる自分の心を磨く、その自己研鑽と切磋琢磨の場がロータリーの例会です。例会に出席することにより、自分の心が磨かれ、自己研鑽に励むことができます。そして、例会を出たところでも最もよく自己研鑽に励む者には最大の功徳があるということです。その結果、自分の企業が栄え、その余徳は同業者を潤し、地域社会を豊かにしていくことに繋がっていきます。これこそ、ロータリーの奉仕の心ここにありということになるのではないでしょうか。

「決議23－34」第2項

第2項ではロータリークラブとはなにか、について記しています。前項第1項では、ロータリーの奉仕の理念とはなにか、について記されていましたが、第2項ではそれをもとに、それぞれの職業の代表として、また地域社会のリーダーとしてロータリアンは奉仕の哲学を受け入れたうえでクラブにおいて〝何をするか〟を4つに分けて具体的に述べています。

第1は、奉仕の理念を学ぶことです。ロータリアンはそれぞれの事業および専門職務に携わる人の代表ですから、それぞれの事業を繁栄させ、良質な職業人とならねばなりません。それが同時に人生の幸福を得るための基礎である、つまり、自分の仕事が自分の人生の幸せにつながることであり、それをクラブ生活の中で研鑽をつむことを求めています。

第2は、第1で謳う良質な職業人として研鑽を重ね、その成果を以て奉仕の実例を、クラブの中

だけにとどまらず、地域社会に対して、親睦と職業倫理の輪を示し広げることを求めています。

第3は、クラブの外でも、職業人ではない個人としての生活の中のあらゆる場面でも奉仕の理念を実践することを求めています。

第4は、奉仕の理念を正しく理解したロータリアンが奉仕を実践し、さらには個人のみならず団体（クラブ）が実践することも奨励し、他のロータリアンさらにはロータリアン以外の人々も押し付けではなく触発されて、実践をする、こういった機運を醸成し、実践を促進させなければならないと説きます。この条文が決議23－34の背景となった、理論派と実践派の対立を調和させたことを示しています。

これらの4つの実行指針を含んだ上で、第1項に立ち返れば、「他人を思いやり、そして他人のために尽くす」、「超我の奉仕（Service Above Self）の哲学」「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる（He profits most who serves best.）の哲学」という実践倫理原則に帰結すると言えるのではないでしょうか。

「決議23－34」第3項　「国際ロータリーとは」

第3項は国際ロータリーの役割が明文化されています。国際ロータリーの役割は、主に奉仕の理念の擁護、育成と普及、ロータリークラブの設立、援助と運営管理、情報伝達および各クラブの運営方法と社会奉仕活動の標準化を図ることです。第5項で述べられていますが、国際ロータリーは決して各クラブの上部組織ではなく、クラブは独立した自治権を持っています。

「決議23－34」第4項　「ロータリーの奉仕とは」

第4項ではロータリー運動は単なる理念の提唱ではなく、実践哲学であり、奉仕するものは行動しなければならないと述べられています。従って、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動で示さなければならないとしています。この項では、さらに団体奉仕活動を行う際の条件が定められ、条件付きとは言え、クラブの団体奉仕活動が認められていることになります。

「決議23－34」第5項　「クラブと国際ロータリーの関係」

第5項は、クラブ自治権について定められています。クラブが地域社会に適した奉仕活動を選ぶ絶対的権限を持っていますが、ロータリーの目的を無視し、クラブの存続を危うくするような活動をすることは禁じられています。そして、国際ロータリーは一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、すべて推奨であり、クラブに命令する権限を有するものではありません。それを取るか取らないかは各クラブの自由裁量という事です。

「決議23－34」第6項　「奉仕活動の選択基準・準則」

第6項では、クラブが実施する社会奉仕活動の指針が具体的に述べられています。既に他の団体や機関が実施している奉仕活動と重複する奉仕活動は禁止され、現存の機関に協力する形で行うこ

とを推奨しています。また、宣伝目的の活動は禁止されていますが、正しい広報の実践を求めています。これらの条件が果たして地域社会のニーズを満たすものかどうか考える必要もあります。最後に、「ロータリーの奉仕活動の実践は個人奉仕が原則であって、クラブが行う奉仕活動は会員のための例示、サンプルに過ぎない」と記載されています。

おわりに　～奉仕の理念を未来へ繋ぐ～

ロータリーの歴史から奉仕の理念を示した決議23－34まで述べて参りました。
ロータリーは思いやりの心をもって他人に尽くす人生哲学である「奉仕の理念」、
Service above self「超我の奉仕」
One profits most who serves best「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」
を全ての活動の根底に置きます。これを常に携え、そして大切な事はこの「奉仕の理念」を個人生活、事業生活、および社会生活に適用、実践に移す事です。実践に移すことで自分自身を、事業を、業界を、そして社会全体を向上に導く道が見えて来ます。企業経営に視点を移すと、自分の儲けを優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営みその利益は従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分する、それが継続的に利益を得る道であり、業界全体の職業倫理を向上させることに繋がって行きます。何と今から１００年以上も前に修正資本主義に近い考え方を先取りしたことに驚かされますが、それだからこそ「奉仕の理念」は提唱から１００年以上たった今でも我々のビジネスや生き方に対し多くの示唆を与えてくれるのです。

そして次に大切な事は「奉仕の理念」を次世代に繋いで行く事です。「奉仕の理念」は

現代社会のみならず未来の社会に対し普遍的な力をも持った理念と言えます。私たちは将来世代の利益になるように努める必要があります。その為にも未来の社会を担う次の世代にこのロータリーの「奉仕の理念」を伝えて行かなければなりません。

時代は変化しますが「奉仕の理念」は不変です。まず私たちが「奉仕の理念」を学び、携え、実践行動し、次世代に繋ぐことで価値ある未来を創ることが出来ます。これを機会にロータリーの基本理念である「奉仕の理念」を再認識していただき、これをご自身の人生に生かし、更に次世代の方々に繋いでいただきたいと思います。

Special Thanks（敬称略）

シナリオ制作
浮辺 剛志

カバーデザイン
木村 由巳夫（デザインケイアイ）

国際ロータリー第 2580 地区
2022-23 年度ガバナー
嶋村文男

国際ロータリー第 2580 地区
職業奉仕部門長
藤掛靖元

マンガ 奉仕の理念を未来へ繋ぐ

決議 23-34 から紐解くロータリーにおける奉仕の心

2023 年 2 月 28 日発行

企　　画　国際ロータリー第 2580 地区
　　職業奉仕部門
マ ン ガ　日豆思惟子
発 行 者　田 村 志 朗
発 行 所　㈱ 梓 書 院
　　〒 812-0044 福岡市博多区千代 3 丁目 2-1
　　tel 092-643-7075　fax 092-643-7095

©2023 Rotary International District 2580. All Rights Reserved.